

スイカ (ウリ科)

熱帯アフリカ原産で高温乾燥多照を好む。梅雨の雨が長びくと生育が悪くなる。天候に左右されやすい野菜。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地				保温 播種	トンネル 定植			収穫					

1) 適地

水はけのよい比較的軽い土に適します。耕土が深くないと多収は望めません。雨水が停滞するような排水の悪い土ではつるの枯れ上りが早いので、水田に作付けする場合は高畝にする必要があります。つる割病が発生したら、次回から接木苗を植えましょう。自根苗では畑で10年、水田で5年以上の休作が必要です。

2) 品種

大玉品種：甘泉、縞王、祭ばやし、朝ひかり、縞王、日章レッド、ブラックボール

小玉品種：赤こだま、黄こだま、サマーキッズ、紅しずく、姫甘泉

3) 作り方

【圃場の準備】定植の1か月前に、1m²当たり2kgの堆肥と苦土石灰100g、BMようりん50gを施用し、深く耕しておきます。定植が近づいたら、幅300cmの畝を作り、その中央にみぞを切り、緩効性肥料を1m²当たり40g施し、幅120cmの中畝を立て地温を上げるために黒マルチをします。

【定植】必ず接ぎ木した苗を用い、株間100cmで定植します。植穴に粒剤を施用し、できるだけ根鉢を崩さないように注意して定植します。定植後は十分に灌水してホットキャップか、ビニールトンネルをかぶせます。気温の上昇をみて、トンネルに開ける穴の数を増やし、徐々に換気します。

【整枝】本葉6～7枚で親づるを摘芯し、生育のよい子づるを4本伸ばしてつるが重ならないように配置します。1番果の着果節位までの孫づるは全て掻き取



定植とトンネル被覆



トンネル内での生育状況

り、その後は放任します。つるは畝の外に出ないように、畝の端に届いたら内側に U ターンさせて誘引します。

【摘果】品質がよくなりにくい1番果を摘果します。1番果の摘果は、つるボケになるのを防ぐため2番果が確実に着果したことを確認してから行います。

【追肥】1回目はつるが中畝の外に出る前に外畝の全面に1m²当たり30gの高度化成肥料を施します。油かすを使う場合は窒素分が高度化成肥料の3分の1しかあ

りませんので、1m²当たり100g施用します。追肥後、外畝を耕耘します。2回目は果実が卵大になった時に1m²当たり30gの高度化成肥料を施し、草勢が弱い場合にはその10日後にも追肥をします。根は地表近くに張っているため、追肥は畝上へバラ撒きます。

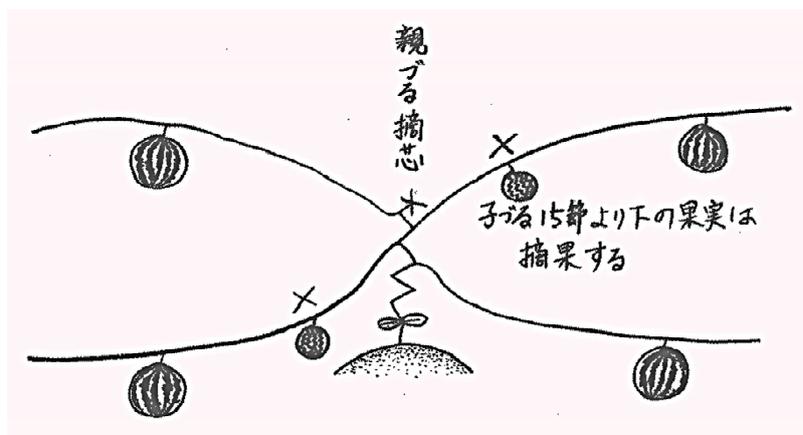
【敷きワラ】つるが1mほどに伸びてきたらワラを敷きます。マルチをしている場合は果実が大きくなるとくぼみができて雨水がたまり、果実が腐りますから、敷きワラはできるだけ厚く敷かなければなりません。

【人工交配】着果を確実にするために人工交配を行います。交配作業は午前中に行います。雄花をとって花粉が出ていることを確かめてから雌花の柱頭につけます。

【収穫】収穫適期の判定は着果した節の巻きひげが半分まで枯れていることとされますが、果実が野球のボール大になったときに日にちが分かる目安となる棒を立ててラベルをつけおき、このときから35日が収穫の目安です。

4) 病害虫防除

疫病や炭疽病が発生します。排水をよくしておくことで被害が軽減されますが、予防的に防除することが必要です。乾燥期にはアブラムシやハダニ類が多発することがあります。定植時の粒剤施用と合わせて、生育期にも適宜防除します。



整枝、摘果と着果位置